

第十八章

緒論の終

二言致

置

第一章を説明し、所の哲学の定義の中の四

種の問題本章を説明し、所の四種の部門的

哲学及び次章^{以下}本論を終る説明の所の各四

種研究的方面と各四種検査的要素に至る

此の如く整理して一から四まで四か

十六の如く整理して一から四まで四か

十六の如く整理して一から四まで四か

十六の如く整理して一から四まで四か

常の根本的原理が自己の中を具有一して

行く大體は概して置ける

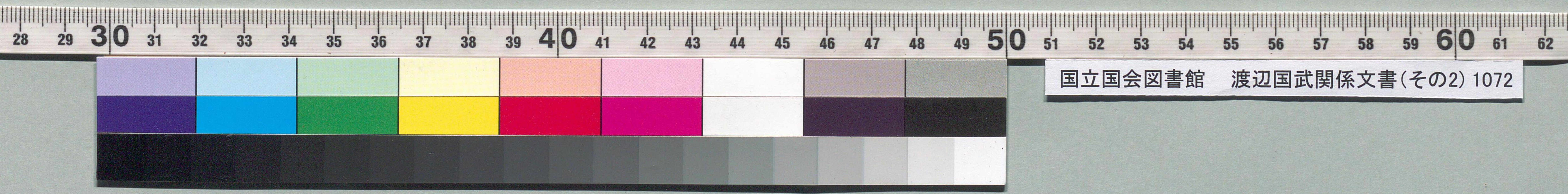
解かすまのりとの下を

る所の力用の四種方面の發動より起る所の
のを有りて決して偶在するものありき
の中を此の本儀述即ち此哲学新系統一家言
全部の組織を直ち全宇宙一切萬有の根本
的原理が自己の中に具有一して居る所の力用
の發動と吻合一致して居るもの有り其の等
のありと今從つて得可き場合を以て本
論に入て後適當の場合に於て追々之と從つ
て居る有りて居るが其れを此の第一言
て置かざればと申れの本講述の組織順序を

東横屋



畢竟昔人々類の認識上思想上に於て哲学と
研究し哲理と了解する為めは適當なる方法
と以て講述するものありきぬの有り
然るは其講述の組織順序を直ち此全宇宙
一切萬有の根本的原理が自己の中に具有一
して居る所の力用の發動と全く吻合一致して
居ると云ふものを何う云ふべきかと云へ
る元来昔人々類と他の全宇宙一切萬有と同
しく此根本的原理が自己の中に具有一して居

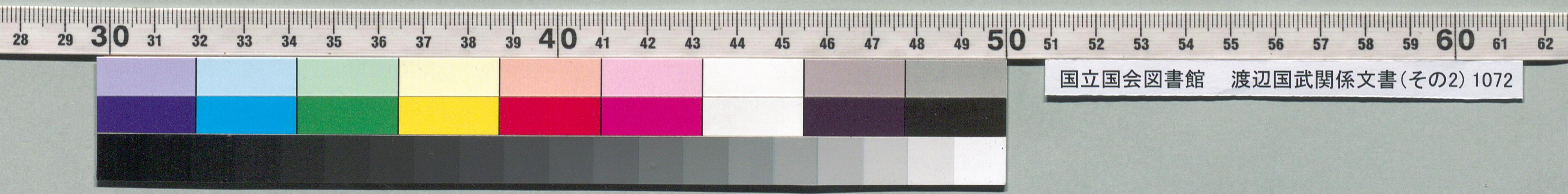


る所の力用は固く表現せりといふ其力用の中
に生存活動し認信思想して居るのである
ら吾人々類の生存活動認信思想等種々の働
きを直ち其根本的原理其れ自身の生存
活動認信思想等種々の働からず又吾人々
類は此全宇宙一切万有の根本的原理を認信
し思想するといふ事あり吾人々類自己と認
信し思想するのて有るうら吾人々類の哲学
と研究し哲理とを解する為めは高常なり
法と此全其哲学の骨子哲理の眼目なり此全

東棟原

全宇宙一切万有の
根本的原理の
ありて居る所の
力用は固く表現せり
といふ其力用の中
に生存活動し認信
思想して居るので
ある

宇宙一切万有の根本的原理が自己の中にある
ありて居る所の力用は固く表現せりといふ其力用の中
に生存活動し認信思想して居るのである
ら吾人々類の生存活動認信思想等種々の働
きを直ち其根本的原理其れ自身の生存
活動認信思想等種々の働からず又吾人々
類は此全宇宙一切万有の根本的原理を認信
し思想するといふ事あり吾人々類自己と認
信し思想するのて有るうら吾人々類の哲学
と研究し哲理とを解する為めは高常なり
法と此全其哲学の骨子哲理の眼目なり此全



の	備	述	と	は	の	不	有	第	二	節	で	本	講	述	の	用				
的	子	死	と	合	言	は	る	場	合	に	於	て	人	々	最	大	幸	福		
を	最	大	愉	快	な	る	最	大	安	樂	な	る	最	大	超	脱	な			
る	最	大	高	潔	な	る	最	大	正	義	な	る	生	活	と	遊	け	得		
る	の	道	と	接	く	る	な	ら	し	て	も	畢	竟	此	際					
解	と	破	る	外	に	は	の	不	有	る	が	其	小	等	と	進				
を	備	述	は	ら	し	て	本	節	を	只	本	講	述	の						
但	後	順	序	と	合	言	は	る	一	切	一	切	の	根	本	的	原	理	の	
カ	用	の	範	疇	と	合	言	は	る	一	切	一	切	の	根	本	的	原	理	の
一	言	一	言	と	ま	く														

東横屋製

